一れつ

立教 187 年こどもおぢばがえり

今年はハワイ団と合同で行い、両団合わせて一般団は少年会員 29 名、育成会員 44 名。少年ひのきしん隊は隊員 18 名、カウンセラー 5 名の参加がありました。14 頁に関連写真。

天 理 教 ア メ リ カ 伝 道 庁

No.921

AUGUST
2024

tenrikyo.com

つらつらせんがく
熟々浅学

―「逸話篇」を読む ―

今月は、少年会アメリカ団がおつとめまなび総会を開催することになっています。一人でも多くの少年会員たちが集まってくれると嬉しく思います。

来月（９月）は、にをいがけ強調の月「全教会布教推進月間」です。天理教の教えを知らない一人でも多くの世界の人々に、少しでもお道の教えを広めていただきたいと思います。「にをいがけ」を意識して、来月１ヶ月をお過ごしいただきたいと思います。どうぞ宜しくお願いします。

さて、アメリカ伝道庁では特に行事がない朝は、午前８時 45 分から朝礼を行っています。最初に「読み物」を読みますが、月曜日から日曜日まで１週間を通して同じ「読み物」を読み、その翌週には違う「読み物」を読んでいます。その「読み物」ですが、日本語の「おかきさげ」、英語の「おかきさげ」、日本語で「元の理」（教典第３章の一部）、英語で「元の理」、日本語と英語で「十全の御守護」、日本語で「八つのほこり」（道友社版）、そして英語で「八つのほこり」（道友社版）を順番に読んでいます。その後、書記からその日の予定などの連絡事項を伝え、庁内勤務者が順番に１分間スピーチを行っています。１分間スピーチは３分間になることも５分間になることもありますが、その時に思っていることや感じていること、或いは目標など「何でもあり」で話してもらっています。但し、暗黙の了解として、不足などネガティブなことは話しません。このスピーチは、順番が決まっているのではなく、スピーチした者が次の者を当てて行くことにしています。大体、満遍なく当たることになりますが、スピーチした者が、数日前に当てられていたことを知らなかったり、忘れていたりすると１週間内で２回以上当たることもありますし、何故か暫く当たらないこともあります。そして、そのスピーチ後、私から一言話をしています。

ですので、伝道庁に居る時の私は、毎日、何かしらの話を考えなくてはならなく、なかなか大変なことです。前日に、或いは数日前から話す内容が決まっていることもありますが、毎朝、朝食後に題材を探していることが多いのです。そうなりますと「付け焼き刃」のような話になり、「中身がないなぁ」と思いつつ話しているのが現状です。そのようなことが 14 年以上続いているのですから「仕方がない」と自分に言い訳をしています。

そのような思いから、今年（2024 年）１月から「稿本天理教教祖伝逸話篇」（以下、「逸話篇」）を読むことを始めました。そして、６月初旬だったと思いますが、収められている全ての逸話を読み終えました。私が「逸話篇」と出会ったのは、高校時代にアメリカに来た時です。

「逸話篇」は教祖 90 年祭時の 1976 年１月 26 日に発行されています。つまり、私が来米した前年の１月です。

そのような時期であったので、高校時代にお世話になっていたセントラルフレスノ教会では、毎夕づとめ後、当時会長であられた雪本益次先生が「逸話篇」を読んでおられました。全部で 200 遍の逸話が収められていますが、一通り全ての逸話を読まれても、その後も繰り返して読まれていたように記憶しています。

そのようなことがあって、逸話の内容は詳細までは覚えていなくても、「このような内容だったなぁ」と記憶しています。また、教祖が“柿の葉寿司”がお好きであったことや当時の先人たちと力比べをされておられたことなどいろいろと知ることができました。

先述通り今年１月から数篇ずつ逸話を読み進めましたが、少し記憶違いしていることに気付き、その記憶違いを修正することができ、非常に有難いことでした。

また、教祖のお言葉が読み難いということに気付きました。教祖のお言葉は「大和言葉」と言われる“方言”でお話されておられたと思いますが、「逸話篇」に書かれている文字を正確に追って声に出すという作業が難しかったのです。「このように教祖は仰っておられたのか」と思うお言葉、言い方がたくさん出て来たのです。ちょっと読み難い言い回しがあり、私が普段使っているような言い回しではないところが多くあったのです。私は幼稚園、小学校、中学校と天理市で育ちましたので、ある程度の「大和言葉」を理解しているつもりですし、実際使って来たと思うのですが、それでも「あれっ？」と思うような言い回しが出てくるのです。ですから、教祖のお言葉を読む時は、文字を一字一字正確に追って読むように集中して読んでいました。

このたび、漠然と理解していた「逸話篇」の内容が拝読すると少々違っている箇所があることに気が付きましたし、教祖のお言葉の言い回し、言い方に戸惑うことが多々ありましたので、もう少し丁寧に「逸話篇」を読む、特に教祖のお言葉を丁寧に読む必要があると感じました。そのようにすれば、今までと違った正確な教祖のお言葉の理解、悟りが出てくる可能性があるのではないかと思うのです。

教祖のお言葉は、含蓄のあるお言葉ではないかと思うのです（高慢な言い方ですが）。つまり、奥深いお言葉であるという意味です。サラッとお言葉の表面だけを捉えることも出来るでしょうが、教祖のお言葉には何重もの階層があって、さまざまなことを経験するたびに、つまり、信仰心を深めるたびに、新しい悟りができるようになっているのではないかと思われるのです。

私たちは人に教理を説くことがありますが、どこかで「教理を知ったつもり」になっていることがあるかもしれないと思うのです。丁寧に教理を読み解いた時、以前に自分が理解していたことと違うことがあるかもしれません。

そうならないために教理勉強することが大切です。そして、常に自分の教理理解、解釈が間違っていないかを確認する必要があるのではないかと思うのです。そうすることによって確かな教理理解ができるようになるでしょうし、それまで気付かなかった思召、親心が分かることも出てくるかもしれません。つまり、このたび「逸話篇」を改めて読んだことによって、信仰的にさまざまな経験を積み重ねるごとに教理勉強を重ねれば、更に教祖の親心の理解が深まるのではないか、と思ったのです。

もし、久しく「逸話篇」を読んでいないのであれば、皆さんも「逸話篇」を読み直すことをお勧めします。伝道庁でも、再度「逸話篇」を読み始める予定です。

尚、数年に亘って英訳の「逸話篇」の再翻訳が検討されていました。昨年、その作業が終わり、改訂された「逸話篇」が出版される運びになっています。いずれ皆さんの手元に届くことになると思いますが、その時には新たな英訳の「逸話篇」を手に取ってお読みいただければ、更に教祖の親心の理解が深まると思います。

深谷　洋

立教187年6月月次祭祭文

これの神床にお鎮まりくださいます親神天理王命の御前に天理教アメリカ伝道庁長深谷洋慎んで申し上げます。

親神様には、人間が陽気ぐらしするのを見て共に楽しみたいとの思召により、紋型ないところから、この世人間をお造りくださり、約束の年限の到来と共に、教祖をやしろに表に現われて、〝このつとめなにの事やとをもている　せかいをさめてたすけばかりを〟と、世界一れつをたすけるおつとめをお教えくださいました。私共は、かぐらづとめの理を受けておつとめを勤め、日々世界たすけの上に勇んで通らせていただいておりますが、その中にも今日の吉日は、当伝道庁の六月の月次祭を執り行う芽出度い日柄に当たりますので、只今から、ぢばの理を頂戴して、おつとめ奉仕者一同心を一つに合わせて、陽気に勇んで、座りづとめ、てをどりを勤めさせていただきます。御前には、今日の日を待ちわびて参集しましたよふぼく、信者一同が、日頃賜る御厚恩に御礼申し上げ、尚も変わらぬ御守護にお縋りしたいと、声高らかにお歌を唱和する状をも御照覧くださいまして、親神様にもお勇みくださいますようお願い申し上げます。

今月三十日には、真柱様の御名代として中山大亮様、また真柱夫人の中山はるえ様の御臨席を賜り、アメリカ伝道庁創立九十周年記念祭を執り行う運びですが、管内の者が心を一つにして、この喜びの旬を迎えて、更なる成人の歩みを誓い合いたいと存じますので、何卒、記念祭を無事に迎え、滞りなく勤め終えさせていただけますようお願い申し上げます。

また、前日の二十九日には、婦人会長様、青年会長様の御臨席を賜り、アメリカ婦人会、アメリカ青年会創立七十周年記念合同総会を開催しますが、滞りなく終えさせていただき、北米の地での道の伸展に拍車をかける機会となりますようお導きの程をお願い申し上げます。

私共は、教祖百四十年祭年祭活動二年目の時旬に、諭達第四号に込められてあります真柱様の思召を心に治めて、にをいがけ、おたすけに励み、親に喜んでいただける成人を目指して陽気ぐらしへの歩みを進め、また、二週間後に迫りました当伝道庁記念祭を勇み心で迎えたいと存じます。何卒、親神様には、私共の真実の心をお受け取りくださいまして、尚も自由自在の御守護を賜り、一日でも早く世界の人々が手を取り合ってたすけ合う世の状へと立て替わりますよう御守護の程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

6月月次祭神殿講話

アメリカ伝道庁主事
長谷川 邦昭

現在私は81才です。その間、私の人生でいろいろな事を学びました。特に、55年間、親神様そして教祖のひながたを全うして私の人生は変わりました。若い方に特に大事な事は成功、失敗、そして過去など先輩から学ぶ事多々あると思います。さて、今日は私は結構な道を通らさせて頂いた大事な人生をお話したいと思います。

特に、私が教訓を得たのは、人生を生きると言う事は大変で不公平であり、人生は厳しく、簡単ではないということです。天理教ではそれを「節から芽が出る」と教えられています。その節を素直に受け入れ、人を責めず、その不都合な事情を相手のせいにしないことです。

人生は心定め、そして目標を立てて諦めず達成することに意義があります。私は両親から波乱万丈の因縁を受け継ぎました。1940年は第二次世界大戦が始まり、日系人は収容所への連行を余儀なくされ、そこで私は生まれました。

終戦後、父は故郷の広島に帰る事を決めました。父は広島に原爆が落とされた事を知らず、家族6人行き場所がなく荒地に住むしかなく、父の知人から牛舎を借りて私たち家族6人そこで生活しました。

私が12才の時、日本での生活はまだまだ大変厳しく、アメリカに帰る決断をしました。叔父の手伝いで私達家族はカリフォルニアに帰ってきました。私は小学校に入学して同級生からは親切にしていただきましたが戦後まもなくでしたので2、3人からいじめにあいました。英語もわからず登校が嫌で学校に行くのは楽しくありませんでした。

高校を卒業してからアメリカ空軍に志願をして入隊しました。軍隊の訓練では父から受けた躾と同じ様な事を上官から受けました。

どのような厳しい環境でもチャレンジして、目上をリスペクトし、ベッドを作り、整理整頓をする。そして、どの様な人種とも仲良く、又どの様な宗教であっても差別をしないような事を学びました。自分にプライドを持って、自分でも思っても無い事を学びました。

特に軍隊での基礎訓練は厳しく、今もって自分の糧となっているのは、真夏に走り続けそしていろいろな障害物を潜り抜け通る訓練です。この経験を通して、どの様な障害も肉体的、精神的に耐え抜き通る事の自信をつけて、自分でも出来るという経験を積み重ね、絶対にもう駄目と思わぬ事であります。いろいろな体験を持って自信をつけて、空軍を除

隊しました。

私の第二の人生は、除隊してから大学でエンジニアリングを学んだことです。その最中、私は病のため全身の 65％の血液を失い、ほとんど命を落とすところ、天理教の先生におさづけを取り次いでいただき助けられました。その先生から、「人助けて、我が身助かる」道一条に切り替えるよう言われました。

私は心の中で天理教は信仰しても、布教師としての道を歩く自信はありませんでした。しかし、家内が枕もとで、「私の主人が助かるなら火の中でも、水の中でも、どの様な不自由の中でも通ります。」と言い、私は息苦しい中、「お前本気か、道を通るのは生半可では通れないよ。」と言いました。

それから、救急車で病院に行きました。その時、医者は、「あなたは出血多量で、普通ならば助からない所奇跡的に助かったね。私が助けたのではなく天の神様が助けたんだよ」 と言われ、それでこの道を通る心定めをしました。

私は思い切って大学を中退し、天理教の布教師として歩む事を決めました。この決断は私に感情的、精神的な強さを与えてくれました。そして時間はかかりましたが、ほこりを払うことを学びました。

何も分からずＮＣ教会に入り込んでから、信者からは厳しく私達のする事なす事は喜ばれず、「おつくしの話はあまりしない方がいいよ」また、「あの人は来させない方がいいよ」など信者さんからはいろいろと指図をされ、ある時は怒鳴られる時もありました。だんだんと不安な日々が続き、神様があるのかなと信仰心が薄くなり、人と接するのが怖くなってきました。

しかし、そのような時も私の心を和らげてくれる人がいました。それは、私の家内です。家内は布教をするに当たり、故郷の岩手県に帰り、母親に天理教の布教をする事を伝えました。反対はされなかったものの、「家はあるのかい。食べ物はあるのかい」と聞かれ、「布教に出るのだからそんなものはないよ」と言うと、母はぽろぽろと涙を流したそうです。

家内の実家は裕福な家庭で、天台宗のお寺の総代をするほどでもありました。娘を遠いアメリカの地に嫁がせるだけでも心を痛めていたでありましょう。そのうえ天理教の布教などとは、思いもよらないことだったと思います。

お道一条に夫婦で教会に入り込んだのは、私 29 歳、家内 26 歳でした。夜は悩み、眠れず、心だけ焦って何も手につかない日々でした。 家内はアメリカの教会という英語も、文化も分からないなか、小言や不足を言わずいつも笑顔でいてくれました。それが私にとって一番の救いでありました。今までよく離婚と言う言葉を一度も口にしないで一緒にいてくれたなと、今も感謝しています。

しかし、それからは思いもよらぬ節を年祭毎にいただきました。 教祖百年祭前、義弟がレストラン経営に失敗し自殺をしました。私は保証人になっていたので、6 万ドルという莫大な借金を背負いました。

110 年祭前は、刑務所から出所した青年を教会で預かっていたのですが、その青年が麻薬をしていて、私はある日突然バットで頭と両手を叩かれ、家内と子供がすぐに救急車を呼び、病院に運ばれました。 医者は私の状態を見て、「よく生きていたね、できることはするが保証は出来ない」と言われました。医療保険もなく、レストランの借金のうえに治療費 5 万ドルが追加されました。

頭は十針ほど縫って半年位の間は頭痛やめまいがしました。両手はギブスをして、家内は食事、下の世話など、愚痴一つ言わず養生をしてくれました。私はおつとめも、おさづけのお取次ぎも出来ず、やる気もだんだん失われていきました。日々悩み精神的、肉体的

にも最悪の状態に落込みました。

心定めを真剣につとめるほど厳しい節を次々とお見せいただき、借金は山積、返済のめども立たず、寂しく、うっとうしく感じ、私の心は真っ暗なトンネルを歩み、なかなか光が見えない毎日でご用が果たせないので会長を辞職しようかとも考えました。

その様に悩んでいるとき、おぢばの教祖殿の回廊で教服姿の前真柱様がお見えになり、「長谷川君。何もかも分かっているよ」と手を握って下さいました。私のやるせない胸の内を見すかされ、私は前真柱様に抱きついて泣きました。気がつくと、それは夢でした。

それから、不思議な事が次々と現れました。

その1年後、前真柱様がアメリカ伝道庁にお立ち寄りになられ、思いもよらずお目にかかり今までの事情を話しますと、前真柱様は「長谷川君、教祖は20年、30年するとなるほどという日が来るでと仰せられた。頑張ってな」と私の手を握ってくださいました。私は嬉しく涙が出てきました。頭をあげますと、前真柱様の目からも光るものが見えました。

そして、前真柱様は教祖百十年祭の1年間を年祭の年にするとご発表されました。「おぢばの声は天の声」として、毎月おぢばへ帰らさせていただく心定めをしました。莫大な借金のなかですから、難しい心定めでしたが、何とか、一年間、12月まで勤めました。

教祖にお連れいただいた感謝の心一杯で、教祖の御前で額ずき、お礼を申し上げ、「今後どのようにさせていただきましょうか、この度のおぢば帰りは家族に多大な犠牲を払っています。旅費だけで借金の上に借金が重なり、到底続けることは無理だと思います。」と伺いました。

その時、誰かが私の肩をそっとたたかれ振り返ると前真柱様夫人のまさ奥様でした。奥様はにっこり微笑みを浮かべて、私に「お帰

りなさい、毎月々々骨を折っておぢばがえり、ご苦労さま。ありがとう」とおっしゃいました。教祖が優しく声をかけてくださったようで、私はあまりの嬉しさに頭のなかが真っ白になりました。感激のまま「おぢば帰りをつづけさせていただきます」と教祖、まさ奥様の前で申し上げていました。後になってあの時に出た言葉が不思議に思いました。

しかし教会に帰ると現実が待っています。もう限界です。莫大な借金の中、来月の飛行機代をどうしてつくろうか、家内と相談していました。するとその会話を聞いて、娘が「お父さんの飛行機代、私がお手伝いするから安心して」と言いました。娘はユナイテッド航空の客室乗務員として、10数人の採用枠に応募したら、200人余りの中から受かりました。教祖の先回りの御守護に飛び上がる程本当に嬉しかったです。

まさ奥様のお言葉のお陰で、それから12年間、144カ月、毎月おぢばに帰らさせて頂きました。今日のこうした姿があるのは、親神様、教祖はもちろんですが、前真柱様、まさ奥様のお導きのお陰でした。お出直しされ、今は懐かしくも、寂しい思いで一杯であります。そして、今月24日には三代真柱様の10年祭が教会本部にて執り行われます。

さて、120年祭では2001年上級ポートランド教会前会長のお出直しに伴い前大教会長のご指名を頂き、2002年ＮＣ教会を妻が受け継ぎ、私が千キロ離れたポートランドの教会長に任命されました。そして、12年間会長を務め、2014年には皆さまご存じの如く、本島大教会長様の弟、片山和信会長が今のポートランド教会長に任命されました。

そして、教祖130年祭の前年おぢばの春季大祭を終えてＮＣ教会に帰りました次の日の朝、ボイラーから出火して教会の屋根、神床に火の手が回りました。親神様、教祖のお社だけは出さなくてはと思い、消防士の制止を振り切って無我夢中でモービルホームにお移しいたしました。鎮火するのに1時間半くらいかかり、全焼しました。それから数日は夜も眠れぬ状態でした。日が経ってから気を取り戻し、結果として教会の火災は親神様から頂いた不思議な御守護とだんだんと気が付いてきました。

もし火災が夜中であれば私と家内は出直していたでしょう。教会も新築になり、神床も檜になりました。ちょうど私がポートランドの会長を辞職して心が緩み、やれやれとほっとした時のことでした。

人生において苦労は奈落に落とすためでなく、精神的に強くなり、年祭前に新しい教会のご褒美を頂き、先々の結構をお与えいただける種でした。

さて最後にご存じの如く140年祭に向かって諭達第4号をご発布頂くこの旬に私が身の内の病いを親神様から頂きました。2年前、5年に一度の腸の検診をいたしますと、12個癌が見つかりステージ3でした。そして、手術、抗がん剤治療に入りました。

今まで通ってきた道中での、不信感、悩み、怒り、心配、不安、不足、いらいら などなど、50年間に亘り心に積もったほこりを、癌という身上にお知らせ頂きました。親神様にもたれて通ることの大切さをお見せ頂き、今は喜んで日々ひのきしん、教会の御用をつとめさせて頂いています。ありがたい事に私は痛みもなく、疲れも無く、食事もおいしく毎日頂いています。

なににてもやまいとゆうてさらになし
心ちがいのみちがあるから　　3号95

それで、私の癌という身上は過去の心得違いからと、今はどのような事が起きても結構と喜び勇んで通りますとお誓いしたところ、昨年の腸の検診では、奇跡的に癌は無くなったと医者から報告を頂きました。

節は人生の芽を吹かす絶好の機会であります。どうぞ諦めず、世間の風潮常識に惑わされずに、この道を信じて教祖のお心に近づく努力、工夫をし、心澄み切らせて人助けに勤しみ、ひながたを通る心で全うされることを願います。信仰の醍醐味は、それぞれの節を真正面から受け止め、自分自身の努力と信念によってそこから喜びを得ることだと思います。

最後に、人生は不公平で厳しいです。しかし、それを受け入れ、他人が豊かであっても羨ましく思わず、この道を信じて、優しく、謙虚で、正直で、誠実に乗り越える価値観を持って素晴らしい世界を築きましょう。

81年という人生で私は少なからずいろいろと学びました。私は幼少の頃からの厳しい苦労の道から、教祖のひながたの道に切り替えて、現在は結構な姿をアメリカで天理教の布教師としての夢を実現させて頂きました。皆さまも真剣に教祖のひながたを通れば、心の喜び、すなわち陽気暮らしの道が見えてくると思います。

来る伝道庁９０周年には真柱奥様と大亮様をお迎えします。教祖のひながたの道にそって、過去の道以上、ますますの成人の姿を将来に向かって築く事を約束してお互い頑張りましょう。

立教187年7月月次祭祭文

これの神床にお鎮まりくださいます親神天理王命の御前に天理教アメリカ伝道庁長深谷洋慎んで申し上げます。

親神様には、紋型ないところからこの世人間をお創めくだされ、旬刻限の到来と共に、教祖をやしろにこの世の表にお現われになり、神直々のだめの御教えをお啓きくださいました。爾来、道は世界に伸び広がり、この北米の地にも教祖のひながたを頼りに、たすけの御用に勤しむ者をお与えいただいております。私共は思召にお応えさせていただけるよう、日々勇んでつとめておりますが、その中にも今日の吉日は、当伝道庁の七月の御祭りを執り行う芽出度い日柄ですので、只今より、ぢばの理を頂戴して、おつとめ奉仕者一同心を一つに合わせて、陽気に座りづとめ、てをどりをつとめさせていただきます。

御前には、今日の日を楽しみに参り集いましたよふぼく、信者一同が、日頃賜る御高恩に御礼申し上げ、尚も変わらぬ御守護にお縋りしたいと、声高らかにお歌を唱和する状をも御覧くださいまして、親神様にもお勇みくださいますようお願い申し上げます。

先月三十日には、真柱様の御名代として中山大亮様、真柱夫人の中山はるえ様の御臨席を賜り、当伝道庁創立九十周年記念祭を無事に迎えて滞りなくつとめ終えさせていただくことができ、誠に有難うございました。記念祭の折に頂戴しました真柱様のメッセージの思召を忘れずに、これからの道の歩みを進めたいと存じます。

また、前日二十九日には、婦人会長様、青年会長様の御臨席をいただいてアメリカ婦人会・青年会創立七十年記念合同総会を滞りなく開催することができ、誠に有難うございました。婦人会長様、また青年会長様より頂戴しました御告辞の思召を心に治めて各会活動の推進ができますようお願い申し上げます。

今月は、管内より大勢の人々が既に帰参しており、また、これから帰参しますが、道中無事にお連れ通りいただき、それぞれがぢばの理を頂戴して勇んで土地所に戻れますようお願い申し上げます。

また来月には、少年会アメリカ団おつとめまなび総会を開催しますが、一人でも多くの少年会員が参集し、無事に終えられますようお導きの程をお願い申し上げます。

私共は、常に親神様の思召を求めて御教えを実践し、陽気世界実現に向けて邁進する覚悟でございます。また、教祖百四十年祭に向けて心の成人に励みたいと存じます。

何卒、親神様には、私共のこの真実の心をお受け取りくださいまして、世界の人々がたすけ合って睦み合う、陽気づくめの世の状に、一日でも早く立て替わりますよう御守護の程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

7月月次祭神殿講話

ハイシアトル教会長
平井 信乃

本日は皆様と共に7月の月次祭を無事に勤め終えさせて頂き誠にご同慶に存じます。そして先日のアメリカ伝道庁創立90周年の記念祭、又70周年の合同総会の感動も冷めやらぬ中、今日の神殿講話の御命を頂きました事は私にとって大きな親心を頂いた事と思い、務めさせて頂きますのでしばらくの間ご静聴頂けます様よろしくお願いいたします。

私が会長の御命を頂いてからはや24年が経ち今までに3、4回の神殿講話を務めさせて頂きました、悩み事があってなかなか勇めない時もあった気がいたします。悩み事があるときに限って神殿講話の御命を頂いているような気も致します。

今の私の悩みと申しますのは教会の後継者問題でございます。私には5人の子供をお与え頂いております。それぞれ親里セミナーを終え、ようぼくとなっております。しかしながら教会の後を継ぐということにはなかなか立候補者がおりません。毎日このことが胸に重くのしかかっております。

以前親会長達がいてくださった頃は賑やかだったおつとめも信者さん方が出直されたりしてだんだん少なくなって参りました。そんな中で私が日々に心がけている事があります。

それはどんな事でも神様にお願いするのです。例えば私の携帯やメガネは毎日無くなります、時にはカバンごと無くなることもあります。何時間もさがしても無い時は神頼みで御座います。

不思議なことにお願いすると必ずすぐに見つかるのです。それもさっきさがしたはずの所からです。そしてその後すぐに手を合わせてお礼申し上げます。時には声に出してお願いしたりお礼を言ったりします。

小さなことから大きなことまで何でも神様に相談いたします。そうするとだんだんと御守護いただいていることがわかってきました。こんな時私はすぐそばに神様がいてくださるような気がいたします。また、“困った時の神頼み”はしなくてはいけないと思います。

普段のことを思うと困った時だけお願いしては申し訳ないと感じる方もいるかもしれませんが、それは違うと思います。困ったとき

ほど神様を頼るべきです。もしも困った時だけにお願いするのは申し訳ないと思うのなら、お願いした後でもしっかりお礼をしてください。助けていただいた話をいろんな人に聞いてもらうのも一つです。きっとその話を聞いて勇気付けられる方もいることでしょう。

記念祭で真柱様の名代として中山大亮様が読まれた祝辞の中にある“値を持って実を買う”のお言葉がありました。値を持っての値とは自分のするべき努力であり実にふさわしい努力とも言えると思うのです。私にはまだまだ努力が足らないのです。

この努力が足りないところの一部を補うアイデアが浮かびました。我が子にはなかなか親の声が届かないのならせめて私の周りに寄ってくれる他所の子供さんに我が子同然の心を掛けようと。

時々教会を頼りに若い方が訪れてくれる事があります。去年もそのうちの一人が教会に出入りしてくれるようになり、一緒にご飯を食べながら家族の話をするようになりました。

私は偉そうにあなたがここで勉強できるのはご両親のおかげであり神様の御守護を頂いているのだと話しました。するとその男の子は普段あまり父親と話さないと言っておりましたが、だんだんと父親に感謝を伝える様になった様です。

昨年学校を卒業して帰る際に、シアトルのお母さんへという嬉しいメッセージをくれました。我が子も数年前にNYで学校に通い、私も娘も不安な気持ちをもっておりましたがセンターの皆さんのお陰で無事に卒業させていただきました。今でも心から感謝しております。

子供達はいつもどこかで誰かのお世話になっています。そのことを思うと今自分の周りにいる誰かの子供さんに心を掛けるのは当たり前のご恩返しであります。

また先月の記念祭のおり、私は子供さんの多い部屋に入れて頂きました。朝方、お母さんの姿を探して小さい子供さんが泣き始めました。するとすぐ近くで寝ていた5～6歳の子供さんがその子を抱っこしてキッチンでひのきしんをしているお母さんのもとへ連れて行ったのです。

この姿にお道の子供の素晴らしさを感じました。

神様の教えを聴きながら育ったこの子達は親と同じように毎日道を通ってきたのです。自分で気がつかなくてもお道の精神は受け継がれているはずです。

そんなふうに育ってきた皆さんにお願いです。若いみなさんには未来を見つめる夢があります。その夢の途中でも時々は振り返ってみなさんの後ろ姿を見つめる親の目がある事をどうか知って下さい。苦しいとき、迷った時、きっとその目の有り難さに気付くと思います。

アメリカ伝道庁は90周年を迎えましたが、代々信仰を受け継いできたこの道はもっと長い道のりだったはずです。

私は自分の若かりし頃のことを思い出すと“自分が納得したら言う事を聞く”というような事を言っていたと思いますが、お道の教えの中ではそれは叶いません。何故なら、実際

に行わなければ絶対にわからないことが多々あるからです。しかし親を信じて行えば必ずなるほどと思える道であるのです。

神様は“ちょいと話神のいうこと聞いてくれ”とお教えくださっております。耳を傾け始めると成る程とわかってくるはずです。

幼い頃、教会生活の中で感じていた事。それは面白いテレビがある時間には必ず夕勤があります。また遊びがちょうど一番面白くなった頃にまた夕勤です。朝は朝で眠い中で起きて朝勤です。たとえ幼い頃そうであっても、おつとめの大切さを学べばそう言ったこともだんだん納得してくれると思います。（というのはたてまえ、、、）それには根気と忍耐がいるのです。

ましてや親子の間では遠慮がありません。嫌なことは嫌だというようになったら突然反抗期に突入です。信者さんにならぐっとこらえることができても我が子となると余計に腹がたつのです。お互いに売り言葉に買い言葉になって“ハイシアトル親子バトル”の始まりです。

今ではみんな30歳を超えていい大人となり好きな時だけに家に帰ってきます。あちらこちらの教会の会長交代を聞くたびに羨ましくてため息が出ます。いろんな方法を試みますが小さな希望も大きな絶望に変わりつつあります。

そんな中去年の10月教会本部の秋季大祭におぢばに帰らせていただき真柱様のお話を聞かせていただきました。その中にそれぞれの持ち場立場の務めを最後まで諦めずに頑張って頂きたいとおっしゃいました。私はこのお言葉を宝として持って帰ってきました。　嬉しかったのです。私の悩みを励ましてくださっているように感じました。私は信者さんの子供さん方にも我が子たちにも教えを伝えることが私の務めであり立場であることを改めて反省いたしました。

私にできることは諦めずに伝えることです。

まだまだ子育てが終わっていない私の愚痴の混じった今日の話をお聞きいただき何からでもアドバイス頂けたらこんな嬉しいことはございません。

最後になりましたが、教祖が50年の雛形をかけて勤めをお教え下されたことを今一度私自身が自覚し務めさせて頂こうと思います。教会という理は土地処のお助け道場でありおつとめを勤ることが仕事であります。教祖140年祭には少しでもお喜び頂きたいと思い務めさせて頂きます。

本日はご静聴いただき有難うございました。

伝道庁連絡

7月月次祭

祭　主　　庁長
扈　者　　大西知　川上和海
賛　者　　小島ブライアン　屋敷ゲーリー
指図方　　岡崎マーロン
神殿講話　平井信乃（日）

教会事情

加奈陀教会：臨時祭典願、恒例祭日臨時変更願
　おはこび：2024年4月18日
　創立90周年記念祭：2024年12月1日
オレンヂ教会：任命願、臨時祭典願
　おはこび：2024年7月26日予定
　教会長：伊藤錦平
　奉告祭：2024年9月21日

教人資格講習会・教会長資格検定講習会

例年8月末から予定されている教人資格講習会英語クラスは5名以上の受講希望者がありませんでしたので中止となりました。但し、同時通訳など受講希望者がおられましたら、8月15日までに伝道庁にご連絡下さい。9月末(9月27日～10月17日)からの教会長資格検定講習会英語クラスに受講希望者がおられましたら、9月15日までに伝道庁までご連絡下さい。

天理教語学院（TLI）日本語科入学願書及び志願者のための一れつ会扶育願書

2025～2026年の「天理教語学院日本語科入学願書」と「日本語科志願者のための一れつ会扶育願書」の出願期間が下記の様になっていますので、入学を希望される方は8月末までに伝道庁までご連絡下さい。

尚、今年度より、願書は天理教語学院のホームページ(https://kaigai.tenrikyo.or.jp/tli/top/)からダウンロードし、入手してください。同じページに入学案内、注意事項等もございますので、入学を検討されている方はご一読ください。

日本語科入学願書
　出願期間：2024年8月15日～9月20日
　　日曜、祝祭日除く
　願書費用：無料
一れつ会扶育願書
　出願期間：2024年8月15日～9月20日
　願書費用：無料（日本語科志願者のみ）

秋季霊祭

9月14日（土）午後7時より秋季霊祭を執り行う予定です。

祭典役割

祭典参拝の有無、或いは変更は、参拝予定月の前月月末までに伝道庁に連絡して下さいますようお願い致します。例えば、9月月次祭参拝有無に関しては、今月末（8月31日）までに最終連絡を下さいますようお願い致します。

伝道庁人事

2022年8月19日より女子青年として勤めている林さわさん（香川・小門海）は8月21日に勤務を終えて帰国予定です。

各会連絡

ふしん委員会

・MPホール2階男子トイレの天井、外壁の修理を計画中。
・天理会館、サラトガストリート沿いの排水管工事の見積もりをとっています。
・新しい庭師を探し出すことを検討しています。

教化育成委員会

・おやさと練成会が7月16～22日におぢばにて開催され、アメリカ・カナダからは10名が参加し、参加者は7月20日におさづけの理を拝戴しました。また、期間に先立ち7月9～16日まで、岡崎宏子会長、カウンセラー、参加希望の学生と共にプリセミナーを行いました。
・TSAは、月次祭後にベイクセールをさせていただきました。かき氷、軽食、お菓子を提供させていただき。集まったお金は、TSAの行事に使用させていただきます。

広報委員会

・教祖 140 年祭に向けた活動のアイデアを管内の方々が共有できるようにとの思いで、実際に活動している方々の情報を「一れつ・ニュースレター」に連載しています。つきましては、各教会・布教所・地区、また身の周りの方々の活動情報・写真等の提供をお願い致します。
　情報提供先
　川上 kamishuyo@hotmail.com)
　林（takhayashi@gmail.com)】
・90 周年記念祭時に展示していた「90 年の歩み：写真展」は、11 月の月次祭まで継続して展示されます。
・伝道庁ホームページ
90 周年記念祭の模様を掲載する予定です。更にその後は「SoulFire」の様に各イベントの写真・動画等を掲載していく予定です。
・Stories Inspired by Oyasama」動画、「SoulFire」の記録ビデオ、祭典講話、Podcast 等が視聴出来るようになっています。是非、伝道庁ホームページをご覧いただき、また周りの方々に紹介いただきますようお願いします。
・「Members」用のパスワードは、「joyouslife」です。

tenrikyo.com

Future Path 委員会

　2025 年の 6 月に行事の開催を相談しています。行事を行うことによって、2022、2023 年の SoulFire、2024 年の 90 周年記念祭から、2026 年に執り行われる教祖 140 年祭へ向けての架け橋を作ることがねらいです。
　内容は、コロナ以前に計画をしていた天理教教典の勉強会に近いものを検討しています。

婦人会

・「How to Lead a Faith-Based Life」
　「教えをもとに」の英語改訂版が発行されました。
　ご希望の方は１冊１ドルでお分け致します。
　地区責任者、または文書部までお申し込み下さい。
・地区総会
　サンフランシスコ地区　　9 月 28 日（土）
　　サンマテオ教会
　ロスアンゼルス地区　　9 月 29 日（日）
　　伝道庁
　シカゴ地区　　9 月 29 日（日）
　　ミッドウエスト教会

少年会

・こどもおぢばがえり：今年はハワイ団と合同で行い、両団合わせて一般団は少年会員 29 名、育成会員 44 名、少ひは隊員 18 名、カウンセラー 5 名の参加がありました。
・少年会おつとめまなび総会が 8 月 17 日に開催されました。その前日からはお泊まり会も行われました。
・鼓笛隊員募集中：道の友と一緒に「一手一つ」の鼓笛活動をしませんか？たすけあいや、人のために尽くす喜びを学べる活動を行ってまいります。9 月伝道庁月次祭前日から練習を再開します。詳細は【moto1884@gmail.com】まで。
・少年会員に教祖のお話をしましょう。親子ぐるみで教会に参拝し、ひのきしんをさせていただきましょう.

青年会

・7/18 ～ 24 インターナショナルひのきしん隊
　北米地域からは 10 名が参加しました。(東海岸 7 名、西海岸 3 名)。

NY センター

・8/24 ～ 25 少年会おとまり会 / おつとめまなび総会
・9/1 にをいがけデー NY 地区
・9/12 文化協会こども日本語クラス新学期開始

90 周年記念祭　道友社編集動画

　道友社で編集された伝道庁創立 90 周年記念祭の動画がご覧いただけます。どちらも同じ内容です。
https://www.tenrikyo.or.jp/yoboku/movie/toukou001/

https://youtu.be/fEnfAhawx7o

立教 187 年こどもおぢばがえり

TENRIKYO MISSION HEADQUARTERS IN AMERICA
2727 EAST FIRST STREET
LOS ANGELES, CA 90033

NON-PROFIT ORG.

U.S.POSTAGE
PAID

LOS ANGELES. CA
PERMIT NO.30002

CHANGE SERVICE REQUESTED

THE JOYOUS LIFE

TENRIKYO came into existence on October 26, 1838, when God the Parent, Tenri-O-no-Mikoto, became revealed through Oyasama, Miki Nakayama, to save all humankind. God the Parent is the original and true Parent who not only created humankind but has nurtured and protected human beings ever since.

God the Parent created humankind so that by seeing us live the Joyous Life, God could share in our joy. The living of the Joyous Life is, therefore, the purpose of our existence. Since God the Parent is our Parent, we are all God`s children, and thus we could realize that we are all brothers and sisters.

"With human beings:the body is a thing lent by God, a thing borrowed. The mind alone is yours." Osashizu:June 1, 1889

We are taught that our bodies are borrowed from God the Parent and only our minds belong to us and, by the proper use of our minds, we will be able to live the Joyous Life.